

二〇二〇年度 入学試験問題

国 語

第三回

【注 意】

- ・試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・問題は一ページから八ページまでです。
- ・解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- ・字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

二〇〇九年に設置された「⁽¹⁾グローバル人材育成委員会」が二〇一〇年四月にまとめた文書を見ると、「主体的に物事を考え、多様なバックグラウンドを持つ同僚、取引先、顧客等に自分の考えをわかりやすく伝え、(中略)互いを理解し、更にはそうした^(ア)サイからそれぞれの強みを引き出して活用し、相乗効果を生み出して、新しい価値を生み出すことができる人材」が「グローバル人材」であるとしています。この「同僚、取引先、顧客等に」「それぞれの強みを引き出して活用し、相乗効果を生み出して、新しい価値を生み出す」などの文言に、国際競争を勝ち抜き、新たな価値でビジネスチャンスを創造する人材育成への、経済界からの強いイヨクを見ることができま

す。
A、^(イ)産学で「グローバル人材」の養成が議論されるようになった背景には、経済状況の変化があります。これまでのように経済活動、企業活動が主に日本国内でおさまっていた時代とは異なり、市場を海外に求めていかなければならない時代になりました。少子化によって国内市場が縮小を続ける一方であることも無視できません。そこで海外へ積極的に打って出る「グローバル人材」の育成が急務ということになったわけです。二〇一一年四月に出された「^(イ)産官学連携によるグローバル人材育成のための戦略」では、「グローバル人材」として、次のような人物像を想定しています。

世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間

ここで「グローバル人材」は「競争」のみならず、「共生」にも対応しなければならぬという意識がはっきりと示されるようになります。そこで必要な資質として挙げられているものをまとめると、次のようになります。

- ・日本人としてのアイデンティティ
- ・広い教養と専門性

・相互理解に努めるコミュニケーション能力
・新しい価値を創造できる能力
・社会貢献意識
「グローバル人材」は英語ができたならそれでよい、というようなものではなさそうです。

B、⁽²⁾「グローバル人材」を育てるためにどんな教育をすればよいかということになると、やはり「英語力強化」の域を出ない議論が目立ちます。小学校から英語の時間を入れる、ネイティブスピーカーの先生に授業をしてもらう、英検を積極的に受けさせる、英語教育に^(イ)特化した推進校をつくる……。

これらの方針が英語力強化にどれくらい^(イ)実効性があるかという問題もありますが、それはまた別の機会に検証するとして、^(イ)多くがみなさんに^(イ)リユウイしていただきたいたいののは、英語は目的ではなく手段であるということですから。そもそも英語は、異なる母語を持つ人々が意思疎通するために標準的に通用するようになった道具に過ぎません。

英語を母語にする人々は全世界で四^(イ)オク人いると推定されています。以前、^(イ)多くが米国の大学で教えていた際に、アメリカ人学生がことあるごとに口にしていた不安や焦燥感^(イ)は、日本人が自分の英語力に対して抱く不満と正反対だったといえます。日本人は「英語さえできれば」と考えがちです。しかし英語を母語にするアメリカ人学生にとっては、世界中から英語のできる優秀な人材が競争相手として殺到してくるので、むしろそれ以外のスキルを身につけないと生きていけない、そう考えているのです。

C、競争のスタート地点に到達するためには、英語ができるのは当たり前。肝心なのはその中身、つまり英語を使って「何を問い、考え、表現するか」がなければ、意味がないのです。日本語を母語にするものにとつては、何が自らの価値の源か、よく考えてみる必要があるのです。

英語力以外に、先に見た「グローバル人材」に必要な資質として挙げられているのは、「日本人のアイデンティティ」「広い教養と専門性」「相互理解に努めるコミュニケーション能力」「新しい価値を創造できる能力」「社会貢献意識」でした。たしかに、これらをすべて身につけられたら、素晴らしいことです。

しかし、^(イ)多くは一連の「グローバル人材」育成論議に、二つのちよつとした違和感を抱いています。

ひとつは、先に挙げられた資質というのは、「グローバル人材」である前に、社会人として身につけておきたいものばかりであり、ことさらに「グローバル化」を前提に云々する性質のものだろうかという疑問です。また、こうした高邁な目標をいかに達成しようとしているのか、いいかえれば、こうした理想的な資質を「どのように」身につけるのかについての具体的な議論が見えてこないことです。

もうひとつは、「グローバル人材」という言葉そのものへの違和感です。以前からぼくは、この「グローバル人材」という言葉を耳にする度に、「なんか変だな」と感じていました。せっかくなので、違和感がどこからきているかをちよつと分析してみます。

D 「グローバル」という言葉は、「地球儀の」もしくは「地球全体の」という意味の形容詞です。あるいは数学でグローバルといえば「大域的」、その場所にとらわれず全体で、という意味です。グローバルの対義語は「ローカル」で、こちらは「局地的、局所的、その場限定で」、という意味になります。

一方で「人材」を英語にするとヒューマン・リソース (human resources) です。これは、企業や組織のなかで管理される対象、管理する側にとつて役に立つ者というニュアンスになります。役には立つけれど、管理の対象の域を出していない。実際、二〇一二年に経済産業省から出された資料には、グローバル人材の「需要」「供給」という表現がなされています。そこには、主体的にものを考え、実行するという意思が感じられません。日本語の用法として、指導力、リーダーシップを発揮する人を指して「人材」ということはありません。例えば「ひとかどの人物」という表現はあっても「ひとかどの人材」とはいいませんよね。同様に「大人物」に違和感を抱くことはありませんが、「大人材」といったら変です。ですので、人材に「グローバル」をかぶせると、「世界をまたにかけて管理されている」ような形容矛盾を感じます。

今のところ、「グローバル人材」育成に関する一般的な論議は次のようなところに集約されそうです。

日本の競争力強化のために、「グローバルに」活躍する「人材」が必要だ。

ここでいう「グローバルに」というのは、「国際的に」とか「海外でも」

というくらいの意味で使われているようですが、⁽⁵⁾ ぼくの考えは少々違います。

「グローバル」ということについて考えるには、これまでの国際関係の考え方、つまり「国対国」という発想から一歩踏み出す必要がありそうです。グローバル化の波は日本だけでなく、程度の差はあれ、世界中のどの国にも押し寄せています。地球上のすべての国家、国境の意味が消滅、センゼンの時代であるともいえます。そのような時代だからこそむしろ、むき出しのアイデンティティが跳梁跋扈する時代になったともいえます。多様な価値観の存在を認識するだけでなく、自分の主張が相手にどのように受け取られるかも含めて多様性に向かい合う必要があります。

(斉藤淳『10歳から身につく問い、考え、表現する力

ぼくがイェール大で学び、教えたこと』)

★相乗効果……二つ以上の要素が働きあつておたがいに効果を高めること。

★産学、産官学……「産」は産業界、「学」は学問の世界、「官」は官僚の世界をさす。

★特化……特定の物事に重点を置くこと。

★実効性……実際に効果があらわれること。

★高邁……気高く、優れていること。

★跳梁跋扈……のさばりはびこること。

問一

——(1)「グローバル人材育成委員会」とありますが、グローバル人材の育成が急務になった背景について、ふさわしいものをア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 経済状況の変化があり、世界的な競争と共生が進む現代社会において、互いを理解して、自国の利益よりも社会貢献意識を持った自立した人材が必要になったこと。

イ 経済状況の変化により世界的な競争が進み、数多くの価値観が無数に連立する中で、自分の価値観にこだわりを持ち、周囲にアピールできる人材が必要になったこと。

ウ 世界的な競争が年々激しさを増し、IT化などにより、人工知能に仕事を代替されるかもしれないなかで、人間にしかできないことが何かを見越す必要性が生まれたこと。

エ 経済状況の変化があり、少子化によって国内市場が縮小を続ける中で、日本が海外に市場を求めていくために国際競争を勝ち抜く人材が必要になったこと。

問二

——(2)「グローバル人材」を育てるためにどんな教育をすればよいかとありますが、それについて筆者はどのように説明していますか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問三

——(3)「グローバル人材」という言葉そのものへの違和感とありますが、筆者はどのような点に違和感を抱いていますか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問四

(4) にあてはまる文としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア そのために習得させるべきスキルはまずもって日本人としてのアイデンティティだ、だから、個人が異国の人に語れるくらい文化を深く習得させなければならぬ。そのうえで、産官学が連携することで強固なネットワークを築き、国際競争を勝ち抜くべきである。

イ そのために習得させるべきスキルはまずもって英語だ、だから学校教育でも企業でも英語を習得させなければならない。そのうえで、相互理解のためのコミュニケーション能力や従来の発想にとられない柔軟な思考力という武器も装備すべきである。

ウ そのために習得させるべきスキルはまずもって母語である日本語だ、だから学校教育では、物事を考える力の土台になる日本語を深く学ばせなければならない。そうすることで、従来の発想にとられない柔軟な思考力という武器が装備できるはずである。

エ そのために習得させるべきスキルはまずもってさまざまなバックグラウンドを持つ人たちとともに課題を乗り越えていく力だ、だから学校教育でも企業でも相互理解のためのコミュニケーション能力を高めるといふ武器を装備すべきである。

問五

——(5)「ぼくの考えは少々違います。」とありますが、筆者の考えをグローバルという言葉の意味をふまえた上で、六十五字以内で答えなさい。(句読点を含みます。)

問六

A D に入れるのにふさわしい言葉を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使えます。)

ア しかし イ つまり ウ まず エ そもそも

問七

——(ア)～(オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 小学校から英語の授業を入れたり、英語教育に特化した推進校をつくるなどは、英語力強化の実効性について検証されていないため定かでないが、まずは英語ができるようになることは未来を生きたる子供たちの価値の源になるはずである。

イ アメリカの大学生は、世界中から英語のできる優秀な人材が競争相手として殺到さつとうしてくるので、それ以外のスキルを身につけないと生きていけないと考えているので、その姿は日本人の「英語さえできれば」という考え方とは対照的である。

ウ 世界的に「グローバル人材」が求められるようになってきているので、アメリカの学生が優位に立っていることは間違いないにもかかわらず、不安や焦燥感しやうそうかんを持っているのは、アメリカ社会が競争社会ではあるが、共生社会でないためである。

エ 小学校から英語の時間を入れる、英検を積極的に受けさせるなど英語力強化に絶対的に実効性のあることを日本人はしており、相互理解のためのコミュニケーション能力を高めることや従来の発想にとらわれないことが何より大切であると考えている。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

瑞希が、南原さんの方に一歩進み出て、ペコリと一礼する。何が始まるのかと、南原さんはきよんとした表情で瑞希を凝視している。

「……申し訳ありませんでした」

瑞希の言葉は震えていた。

たどたどしい瑞希の説明で、昼休みが終わってしまいそうだった。南原さんは、欠伸を噛み殺すような表情をしており、心に響いているのかどうか分からない。

長い沈黙の後、南原さんは「そ。大変ね」と短い言葉で同情を表した。

「出たらしい。新人戦」

南原さんは首を傾げている。

「私に言いに来るような事じゃない。そう思うけど」

「あ、ありがとうございます！」

瑞希と一緒に頭を下げたものの、南原さんは無表情のまままだ。

子鈴が鳴った。

南原さんは A 背中を向け、そのまま教室に戻ってしまった。

第一関門突破。全身から力が抜けた。

「あ、私、五時間目は移動教室で……」と瑞希が言う。

「じゃ、後で」

「……ありがとう、歩ちゃん。皆も、ありがとう」

そして、小さくバイバイすると、スカートの裾を翻しながら一年生の校舎へと駆けて行った。羽根が生えているんじゃないかというような身軽さだ。

小さくなってゆく瑞希を見ながら、稔が呟いた。

「許されたと思ってるんだったら、甘いな。それに、まだ他の人達がいる」

「皆に一言、何か言ってくれんかなあ。南原さん……一言でええから」

南原さんの他の部員達に与える影響力だけが頼りだったが、急に不安になつてきた。

南原さんは選手としては凄い人だが、決してキャプテンタイプではない。

三年生達に根回しをして、瑞希が戻りやすい環境を整えてくれるかどうか――。

そして、重い一言を引き出すには、何か南原さんの心を動かすようなものがある。

30

25

20

15

10

5

「やっぱり、瑞希が新人戦で結果を出す事やね。そうすれば……」

南原さんが「この子はチームに必要」と言ってくれる。

「馬鹿。まだ戻れると決まった訳じゃない。これからだぞ、大変なのは」

チャイムが鳴り、中途半端なまま解散した。

*

ストレッチを終えて集合場所に行くと、後藤田コーチが車を回してきたところだった。

他の部員とは別に、新人戦に出場する畑谷さんを車に乗せて、門司陸上競技場へと行く為だ。いつもと同じ光景なのに、緊張しているせいで胸が苦しくなる。

「さ、行くよ」

ユニホームに着替えた瑞希の腕を引き、皆が集まっている場所へと進み出る。

それまでお喋りをしていた上級生達が、会話を中断した。

動きが止まり、笑顔が凍りついた。

高瀬先生が少し離れた場所に立ち、バインダーに挟んだ書類を読む振りをして様子を窺っている。事前に根回しに行った時は「あまり期待するなよ」と素っ気無かったが、一応は心配してくれているようだ。

「よし、皆、集まったか？」

高瀬先生が部員達を呼び寄せる。さり気なさを装うあたりが何だか白々しい。

「先生」

一歩、進み出た人がいた。

河合さんだった。

「何故、競技者失格の人間がここにいらっしゃるんですか？」

いきなり攻撃表示だ。

救いを求めるように南原さんを見たが、目が合った途端、小さく首を振られた。絶望的な気持ちになる。皆に納得してもらえなかったのだ。

「大会を放棄した上、皆に謝りもせず、大事な時期に部活を何日も休む。そんな人間を簡単に受け入れるんですか？」

高瀬先生は「ふうっ」と大きな息を吐いた。そして、瑞希に視線をやっ

60

55

50

45

40

35

た。

「蒲池、何か言う事があるやろ？」

「……申し……訳ありませんでした」

青い顔で言葉を震わせる瑞希を、河合さんは厳しい目付きで睨んでいる。南原さんも無言。

駄目だ。上級生達の反応は良くない。

やっぱり、稔の言う通りだ。甘かった。

「今日は皆さんに謝りにきました。自分でも、何で、あんな事をしてしまったのか……。その後、自分で自分が嫌になって、どうなってもいいと思って……。無断で休んでしまいました。でも、休んでいる間に分かりました。私、走りたいんです」

いつも言葉が少なく、内に籠りがちな瑞希が、しっかりと自分の言葉で謝り、最後にはこれ以上ないぐらいに腰を曲げて頭を下げた。

「お願いです。次は必ず頑張ります。全国に行くお手伝いをさせて下さい。もう一度、私にチャンスを下さい」

「チャンス？」

河合さんのこめかみが、膨らんだ。

「冗談はやめてっ！ チャンスは二度ないの」

B した物言いに、私まで肩を竦めてしまった。

「こないだの大会だって勝てるチャンスだったのよ。あなたにとつては単なる通過点だったかもしれないけど、新人戦やインターハイに縁のない選手にとつては、あれは大事な試合だった。あなたは、そのチャンスを潰したのよ。自分さえ良ければいいの？」

後ろに立つ上級生達も頷いている。

「河合先輩の言う通り」

「あーあ、次がある人はいいな」

「無理に居てくれなくても結構よ」

二年生達までもが河合さんに同調している。畑谷さんですら腕組みをし、助け舟を出そうとしない。

「おいおい……」

見かねた高瀬先生が口をはさんだ。

「みんな、少しは瑞希の気持ちを考えてやれ。南原は本人から話を聞いてるんやろ？」

C 説明したんか？」

95

90

85

80

75

70

65

南原さんの⁽⁴⁾横で、河合さんが目を吊り上げている。

「ナンちゃんからは事情を聞きました。でも、許せないものは許せない。後藤田コーチにも伝えましたが、これが全員の意見です！」

思わず「あぁー」と呻いていた。

⁽⁵⁾「な」と、稔が横から肘で小突いてきた。

グラウンドにはうなだれる瑞希の影が薄く伸びていた。それも、雲が覆い隠してしまおう。

「本当の事を言えば、そのユニホームだつて着て欲しくない」

「そうそう」

瑞希は今、港ヶ丘の名が入った陸上部のジャージを着ている。瑞希は上着の裾を掴み、唇を噛み締めていた。

河合さんが止めの一言を口にした。

「いつまで、そこに立ってるつもり？ 皆、あなたを歓迎していない」

普段は南原さんの影に隠れている河合さんが、いつになく厳しい。

——苦勞しとる人やもんなあ。河合さんは……。

駅伝のメンバーに選ばれて、更衣室で声を殺して泣いていた河合さんを、皆が応援していた。

(高校に入ってから、怪我に泣いたもんね。腐らずに、よく頑張った)

南原さんも、そう言って河合さんを労っていた。

——ずっと故障で大会に出れんで、最後の最後にチャンスを掴み取った。そんな人から見たら、ふざけんなって思うんやろ。瑞希の態度は……。

瑞希に目をやった。

河合さんからの拒絶と、上級生達の態度は瑞希にも大きなショックを与えたようで、紙のように顔が白くなっている。

「……分かっています。自分が、どれだけ大変な事をしてしまったのか。謝って済む事じゃないのも……」

最後は涙声になり、ぼたぼたとアスファルトの上に雫がこぼれた。

堪らず、稔の腕を掴んで駆け寄った。「おい、おい」と稔が抗議の声を上げたが構わなかった。本郷さんに大村さん、栗も続いた。

五人で瑞希の前に整列し、一斉に頭を下げた。

「お、お願いします。蒲池さんは、私達に必要な人なんです」

もちろん、部にも必要だが、歩にとつても瑞希は心の支えだ。だが、全員で謝っても上級生達の心を動かす事はできなかった。いや、

130

125

120

115

110

105

100

余計に河合さんの怒りに火をつけてしまった。

「そんな子を頼りにするぐらいなら、自分達の競技能力を上げた方がいいわよ」

通りかかった生徒達が脚を止めて、何事かと見ている。

「もっと自覚を持ちなさい。三年……、いえ、実質二年半の競技生活なんて、あつという間だから。『まだ一年生だから』なんて気でいたら、何もできないまま高校生活が終わってしまう」

河合さんの言葉は重く、暗い気持ちになる。

その時、南原さんが動いた。

「蒲池……。それから、皆も」

歩達の顔を上げさせる。

「駅伝を走る。それが、何を意味するのか考えた事ある？」

一年生の顔をぐるりと見回す。即座に稔が答える。

「自分の為でなく、他の選手の事まで考えて走る中で、部員同士の結束を固めるんです」

「うん。皆、できてる。でも、蒲池だけが分かってない」

瑞希が唾を呑み込んだ。

「勝つとか、負けるとかじゃない。それ以前の事が、全然できてない。たとえ、大会で勝てたととしても、今のままじゃ駄目」

たとえ、勝っても駄目。

それは、どういう意味なんだろう？ 河合さんは無言で頷いているし、誰も口をはさまない。

何とも言えない気詰まりな雰囲気、高瀬先生が終止符を打った。

「そろそろ、いいかな？ 練習を始めたい」

先生の一言で、緊張していた空気が少し緩んだ。

「ええっと、だな……。本人がやりたいと言ってる以上、無理に退部はさせられない。しかし、蒲池がやった事は皆の信頼を失う大きな問題だ。差し当たっては蒲池は駅伝のメンバーから外す。県予選以降についても白紙だ。それでいいな？」

反論する人はない。

高瀬先生は瑞希に目をやった。

「蒲池も新人戦に出るんだったら猶予はないぞ。それとも、大会まで延々と謝る練習を続ける気か？」

160

155

150

145

140

135

バネ人形のように、瑞希が顔を上げた。

「出てもいいんですか？ 新人戦……」

歩は遠くで佇む後藤田コーチを見た。

コーチも車を出さずに、**D**様子を静観していた。瑞希の態度次第では今日、競技場に連れて行き、畑谷さんと共にトラックで指導するつもりだったのだ。

「いいも何も、予選を勝ち抜いたんだ」

瑞希は未だかつてないほど、大きな声を出した。

「ありがとうございますっ！ 先生っ！ 絶対に勝ちます！」

河合さんを始め、上級生達は白々とした目で瑞希を見ていた。

（甘いよね。高瀬先生は）

そんな声が聞こえてきそうだった。

（蓮見恭子『櫂を、君に。』）

175

170

165

問一

——(1)「欠伸を噛み殺すような表情」とありますが、このときの南原さんの様子としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 瑞希の話が自分には関係ないことであつたため、気楽に聞いている様子。

イ 瑞希の震え、たどたどしい説明では時間がかかりすぎ、いらいらしている様子。

ウ 瑞希の話の内容が理解できないため、うんざりしているのを隠している様子。

エ 瑞希が自分に話をしてきた意図が分からないため、飽き飽きする気持ちを悟られないようにする様子。

問二

——(2)「大きな息を吐いた。」とありますが、ここにこめられた心情について解答らんに二行以内で答えなさい。

問三

——(3)「冗談はやめてっ！ チャンスは二度ないの」とありますが、河合先輩がそう考えるのは、どのような経験をしてきたからですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問四

——(4)「横」とありますが、「横」を使った次の一～五の表現の意味を、後の「意味」ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

一 横顔

二 横紙破り

三 横流し

四 横道にされる

五 横やりを入れる

「意味」

ア 話などが正しい方向からはずれる。

イ ある人のあまり知られていない一面。

ウ 自分の言い分を無理やりおしとおす。

エ 品物を正しくないやり方でよそへ売る。

オ わきから口を出してじゃまをする。

問五

——(5)「な」と、稔が横から肘で小突いてきた。」とありますが、ここで表されているのは、稔のどのような考えですか。ここまでの内容から判断し、三十文字以内で答えなさい。(句読点を含みます。)

問六

——(6)「瑞希が唾を呑み込んだ。」とありますが、その理由について、ふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 南原さんが他の部員達に与える影響力を頼りにして、昼休みに謝りにいったのに、結局がんばろうという気持ちは受け取ってもらえなかったから。

イ 南原さんの「たとえ、勝っても駄目。」という発言の意味を、周囲はわかっているにも関わらず理解できなかったから。

ウ 瑞希は河合さんの言葉だけでも暗い気持ちになっていたのに、影響力のある南原さんの重い一言によって周囲の非難がますます高まったから。

エ 瑞希は、昼に同情を表してくれていた南原さんを理解者であると思っており、まさか批判されるとは思わなかったから。

エ 瑞希は、昼に同情を表してくれていた南原さんを理解者であると思っており、まさか批判されるとは思わなかったから。

問七

【A】～【D】に当てはまる次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし、記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア ずっと イ ちゃんと ウ ぴしゃりと エ くるりと

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「うなだれる瑞希の影が薄く伸びていた。それも、雲が覆い隠してしまおう。」という表現は、薄日が射していることで、瑞希の将来に

希望が持て、この事態が好転することを暗示している。

イ 「うなだれる瑞希の影が薄く伸びていた。それも、雲が覆い隠してしまおう。」という表現は、射していた薄日が、急に雲によって覆い

隠されてしまうように、瑞希が突然苦しい立場におかれたことを暗示している。

ウ 「バネ人形のように」という表現は、先輩たちから陸上部を追い出されそうになっていたのに、高瀬先生から、新人戦に出る許可を

もらった瑞希の、はずむような気持ちを表している。

エ 「バネ人形のように」という表現だけでなく「羽根が生えてるんじゃないかというような」という表現は、瑞希が周囲の目を気にせず自分の感情を表現するがゆえに、反感を買いやすい性格であることを表している。

エ 「バネ人形のように」という表現は、先輩たちから陸上部を追い出されそうになっていたのに、高瀬先生から、新人戦に出る許可をもらった瑞希の、はずむような気持ちを表している。

